

練習は、嘘をつかない。

「人生の達人」

いとう さくぞう

伊東 作藏さん(82)

昭和14年、島原市生まれ。坂下町で少年期を過ごす。教職の道を志し、大学卒業後、中学校教諭として教壇に立つ。長年にわたり中学校バレーボール部の指導者として活躍し、島原市バレーボール協会では会長(H16～H22)などの要職を歴任。定年退職後は島原復興アリーナの初代館長(H12～H16)、島原市社会福祉協議会会長(H26～R1)などを務め、本市のスポーツ振興や地域福祉の向上などに尽力。現在は、地域の教育活動や第三小学校で白山バレーボールクラブの指導を行っている。

長崎県体育協会表彰(H7)、長崎県教育委員会表彰(H17)、文部科学大臣表彰(H19)、日本スポーツ少年団顕彰(H30)など。崩山町在住。

バレーとの出会い、仲間との出会い

大学卒業後、新任教諭として長崎市立戸町中学校に赴任。経験がなかったバレーボール部の監督を頼まれたことが伊東さんのバレー指導の始まりでした。「新任の学校で女子バレー部の顧問を引き受けることになりましたが、その縁で素晴らしい指導者仲間や、いろいろな人たちと出会うことができましたね」と語ります。伊東さんは、近くの高校のバレー部に出向いて指導法を学ぶなどし、持ち前の情熱で着任から5年目でチームを長崎市中体連での優勝に導きます。

30歳の年に島原へ転勤となり帰郷。第二中学校、第三中学校など、市内で13年間教壇に立った後、島原市教育委員会での勤務となり、体育課の指導主事として3年間、そして体育課長として3年間、本市のスポーツ振興に力を注ぎました。

島原に帰郷してからの活躍は目覚ましく、中学校体育大会（中体連）において県大会で優勝5回、九州大会で優勝1回、全国大会へ4回の出場を果たし、当時、島原女子バレーボールの黄金時代を築きます。指導者としての大変さをお聞きすると「中学校では生徒指導も長年やってきました。部活動では、授業中には見えない生徒たちの姿を見ることができます。苦労したという気持ちは全くありませんよ」と語ってくれました。

その人柄と熱意、実績から島原市バレーボール協会の役員を歴任し、平成16年から6年間、会長を務め、競技力向上や普及に尽力しました。



上：昭和48年、第二中学校が県中体連で初優勝したときの記念写真
下：町内会の皆さんとグラウンドゴルフで楽しく交流

子どもたちの応援団として

平成12年、島原第二小学校（校長）で定年退職を迎えた同年、島原復興アリーナの初代館長に就任。5年間、県内屈指の複合スポーツ施設の運営責任者として、全国レベルのスポーツ大会や各種イベント、リーグなどのプロスポーツ誘致などに奔走。この5年間はさすがにバレーの指導はできなかったそうです。

退職後は同級生に勧められて加入した男声合唱団Yoidore（ヨイドーレ）に参加。「もともと私は中学校の部活は合唱部に入っていましたね。歌うことは好きなんです」と語ります。

また、平成26年から約5年間、島原市社会福祉協議会の会長を務め、地域福祉の向上に貢献しました。

最近では町内会（崩山町）や退職公務員連盟の仲間と、週に4回ほどグラウンドゴルフを楽しんでいるそうです。「地域や町内会の皆さんと楽しく親睦を深めながら、人とのつながりを大切にしていきたいですね」

「せくろ先生」の呼び名で親しまれる伊東さん。現在は母校である第三小学校の白山バレーボールクラブで指導をしています。「子どもたちの応援団として、できることは続けていきたいですね」と、将来を担う子どもたちへの思いを語ってくれました。